

# 第3学年音楽科学習指導案

日 時：令和3年11月5日（金） 5時間目  
学 級：釜石市立釜石中学校 3年2組 34名  
会 場：音楽室  
指 導 者：新井 史絵

**1 題材名** 打楽器アンサンブルの魅力を味わい、思いや意図を表現しよう  
教材 「打楽器のための小品」

**2 内容のまとめ** 第2学年及び3学年「A表現」(2) 器楽 ア、イ(イ)、ウ(イ) 及び〔共通事項〕(1)

## 3 題材の目標

- (1) 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解し、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能を身につけて合奏する。 「知識及び技能」
- (2) 楽曲にふさわしい音色・強弱・リズムについて知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫する。 「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 楽器の音色や響きと奏法の関わりや、全体の響きに関心を持ち、他者と合わせて演奏することの良さや必要性を感じながら、主体的、協働的に器楽の学習活動に取り組む。  
「学びに向かう力、人間性等」

## 4 題材について

### (1) 生徒について

これまで、器楽表現として箏・三味線での学習を行い、日本の伝統的な音階やリズムに親しんできた。歌唱表現では、歌詞に描かれた情景や、旋律と強弱の関わりを感じ取り、表現を工夫することができる。しかし、歌詞や音声を頼りにするなど、リズムや音色を知覚してそれらの働きが生み出す特質を受することに課題がある。表現の工夫についても、思いや意図を持つことが情意面に偏りがちで、他者の思いや意図に従う傾向があるため、個々の思いや意図を明確に持たせたいと考える。

### (2) 題材について

本題材では、学習指導要領第2学年及び3学年の内容のうち、A表現(2)の「ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること。」「イ(イ) 楽器の音色や響きと奏法の関わりについて理解すること。」「ウ(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けること。」を指導する。

本教材は、6つのパートで構成され、楽器の組み合わせや、音の重ね方、奏法による音色や強弱の変化など、工夫がわかりやすく反映されることを楽しめる楽曲である。また、歌詞やメロディが付かないことで、パートの役割・パート同士のかかわりが見やすく、音楽を形づくる諸要素の必要性を感じながら、演奏に思いや意図を持って表現を工夫することを学習できると考える。

### (3) 指導について

楽曲の□の部分について、これまでの学習を生かして、リズム・パターン、反復や変化などに注目し、ふさわしい音色・強弱の表現と奏法について工夫させ、一人ひとりに音楽表現に対する思いや意図を持たせる。その上で、6つのパートと合奏グループで、それぞれ仲間と試行錯誤する時間を保障し、

全体の調和のための調整を行わせる。表現の主体として、自分の考えをしっかりと持たせた上で、協働的な学習活動を行い、音色や強弱の捉え方に幅を持たせ、表現の工夫につなげたい。また、協働的な学習活動を通して、相互に客観的な視点を持ち、多様な考えに触れる機会をつくり、アンサンブルの楽しさを味わわせたい。

#### (4) 本研究との関わり

研究主題【主体的に学びに向かう生徒の育成 ～生徒の「問い」を大切にした授業を通して～】

##### ①「生徒の問いを大切にした授業」について

音色や強弱の表現のイメージと、実際演奏した時の音色や音量とのズレに着目させ、その修正を行ったり、パートでまとめた意見を全体の調和のために調整したりするなど、表現について試行錯誤できるよう配慮する。

##### ②「問い」のある授業について

###### ★学びを追求する課題設定

###### ★他者との関わりを大切に学習活動と、教師によるファシリテートの在り方について

録画や発表などで自分たちの演奏を客観的に振り返ることで、課題を把握しながら、それをどのように解決していくか、くり返し話し合いや試行錯誤を行わせ、考えの整理(つなげる)や価値づけ、深化(ゆさぶる)などのファシリテートを行う。

###### ★学びを実感する振り返り

生徒一人ひとりが声部の役割と全体の響きについて考える場面を適切に設定する。その上で、協働的な学習活動を行い、考えの変容や学んだ内容をワークシート等にまとめる。また、学習したことを通奏や合奏で確かめる。

## 5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。</p> <p>②創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら、他者と合わせて演奏する技能を身につけている。</p>	<p>①楽曲にふさわしい音色・強弱や、リズムについて知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。</p> <p>②どのように合わせて演奏するかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫している。</p>	<p>①楽器の音色や響きと奏法の関わりや、全体の響きに関心を持ち、主体的、協働的に学習に取り組もうとしている。</p>

## 6 指導と評価の計画

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知	思	意
		(評価方法)		
1	<p>打楽器の音色の特徴を感じ取り、基本的な奏法を身に付ける。</p> <p>○打楽器の音色の特徴を知覚し、生み出す特質や雰囲気を感じる。 ○楽器を6種類の中から選んでパートを決定し、パートごとの練習で奏法を身につける。 ○楽曲の構造を分析する。</p>	知		
2 本時	<p>楽曲の構成の特徴をつかみ、パートの役割にふさわしい表現を探る。</p> <p>○自分のパートの役割を考え、ふさわしい音色と強弱の表現のしかたを探る。 ・音楽を形づくっている諸要素の働きを意識させ、表現したい思いや意図を引き出す。 ・パートでフレーズごとに役割を考える。 ・それぞれの役割にふさわしい音色や強弱を根拠を持ってイメージし、表現についてパートで試行錯誤しながら表現を工夫する。 ○全員で演奏して、全体の響きを感じ取る。 ・合わせるポイントを「音色・強弱」に絞る。全体の響きとパートでまとめた考えにズレがある場合もあることなどを確認する。</p>		思①	
3	<p>グループで表現の工夫を行い、どのように演奏するか思いや意図を持つ。</p> <p>○全体の響きを感じ取ってパートの考えを調整し、グループで表現の工夫を行う。 ○グループで合奏して参考演奏と自分たちの演奏を比較し、表現に思いや意図を持つ。 ○全体の響きを感じ取りながら、同じリズムを担当する仲間と、どのように合わせたり表現したりするか、意見交換をしながら工夫する。</p>		思②	
4	<p>相互に創意工夫を生かして演奏し、合わせて演奏するための技能を身に付ける</p> <p>○グループごとの工夫について言葉で発表し、思いや意図を持って表現を工夫しながら演奏し合う。 ○題材の振り返りを行う。</p>	技		

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ①音楽的な根拠を持って、楽曲にふさわしい音色・強弱を考え、表現を工夫する。【思考・判断・表現】
- ②どのように演奏したら良いか自分なりの考えを持って、他者と意見交換をしたり、共に表現を生み出したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

### (2) 展開

段階	学 習 活 動 (研究との関連★)	指導上の留意点○ 評価【◆】
導入 5分	1, 合奏して前時の振り返りをする。 ★学びを追求する課題設定	○構造の特徴を確認する。 ○楽譜を見たり、参考演奏を聴いて、今後の学習の見通しを持つ。
<b>本時の課題：この曲の構造の特徴から、自分の役割に合った表現のしかたを考え演奏しよう</b>		
展開 42分	3, 自分のパートの役割にふさわしい音色と強弱の表現のしかたを考え演奏する。 ★他者との関わりを大切に学習活動と、 教師によるファシリテートの在り方 (①つなげる・③価値づける) (1)パートでフレーズごとに役割を考える。 (2)考えた役割に合わせて、音色と組み合わせた強弱の印象を(柔らかく・小さいけれど芯のある音で等)言葉で表現し、それに近づくような奏法を工夫する。  4, パートで考えたことを生かして合奏してみる。 ★学びを実感する振り返り	○役割を先導・呼びかけ・応答・つなぎ・そろえるなどで表す。(ワークシート) ○個人で考えさせた後、パートで考えをまとめ、全体でシェアする。  ○ユニゾンを除く各フレーズについて、それぞれの役割にふさわしい音色と強弱を根拠を持ってイメージし、言葉で書いたり、楽器で試したりして試行錯誤させる。 ○個人でワークシートに記入した後、パート内で工夫する点を出し合い、演奏する。  ◆音楽的な根拠を持って、楽曲にふさわしい音色・強弱を考え、表現を工夫することができる。【思考・判断・表現】 ◆どのように演奏したら良いか自分なりの考えを持って、他者と意見交換をしたり、共に表現を生み出したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 ○試行錯誤したことを生かして合奏する。次回からグループでの合奏となることを確認し、今後の見通しを持つ。
終末 3分	5, 振り返り	○最初の合奏と比べて、変わったことや、わかったことなどをまとめる。(ワークシート)

### (3) 本時の評価規準

	十分満足 (A)	概ね満足 (B)	努力を要すると判断される状況への生徒への指導の手立て (C)
思 判 表	音楽的な根拠を持って、楽曲にふさわしい音色・強弱の表現について工夫し、工夫する点を明確に話したり、書いたり、音で表したりしている。	音楽的な根拠を持って、楽曲にふさわしい音色・強弱の表現について工夫し、考えた内容を話したり書いたりしている。	「強弱」等1つずつ考えをまとめさせる。他者の意見から学んだことを記入させる。
態 度	どのように演奏したら良いか積極的に他者と関わりながら考えを具体的に発言して意見交換をしたり、パートの表現をより良くしたりしようとしている。	どのように演奏したら良いか自分なりの考えを持って、他者と意見交換をしたり、共に表現を工夫したりしようとしている。	他者と交流させ、他者の意見から学んだことを記入させる。